

# コトバ ことば 言葉

児 玉 啓 介

辞書の定義を手がかりにしながら 私達が日常話したり書いたりする ことば を中心に考えてみます いわゆる 議論のための議論とか 論文のための論文にならないように心がけたいと思っています

## 1 ことば と 言語 の定義

広辞苑によりますと ことば は 次のように定義してあります 1 番目に 人の音声の意義あるもの 言語 2 番目に ものいい ことばづかい 口ぶり 3 番目に いいぐさ たとえごと 4 番目に 言葉を文字にあらわしたものと定義してあり 更に 3 項目定義してありますが これは割愛します

角川国語中辞典によりますと ことば の定義は次の通りです 人間が思想や感情の表現伝達的手段とするために 口で言ったり字に書いたりするもの 言語 と大きく定義したあと 9 項目にわたって 詳細に定義してありますが 最初の 2 項目だけ紹介します 1 番目に ある事物をさす単語や語句 2 番目に 音声 文字で表わした文 と定義してあります

更に 広辞林 を見ますと 1 番目に 言語 2 番目に 文字で言語をしるしたもの 文句 文意 3 番目に 言いぶり 言いよう ことばづかい 4 番目に 言いぐさ くちまえ と定義してあります

最後に 岩波国語辞典第三版によりますと ことば とは 意味を表すため 口で言ったり字で書いたりしたもの として最初に大きく定義してから 1 番目に 語 単語や連語 2 番目に 言語 3 番目に 言語による表現 4 番目に 言語で述べ表したもの と定義してあります あと一つ項目がありますが 割愛します

四つの辞書の定義を要約しますと ことば とは 口で言ったり字で書いたりするもの または 口で言ったり字で書いたりしたもの ということになります 要するに ことばをものとして 把握しているということです

次に 言語の定義を見てみますと

広辞苑は 音声または文字を手段として 人の思想 感情を表現し伝達する活動 ことば ごんご げんぎょ と定義しており

角川は 音声または文字によって 思想 感情 意志を表現 伝達する行為と それを理解する行為 また 表現 伝達 理解の手段とする音声 文字の記号体系 ことば と定義しており

広辞林は 人類が音声または文字によって 思想 感情を表現し伝達する活動 音声による表現を音声言語 話しことば といい 文字による表現を文字言語 書きことば という げんぎょ ことば 言の葉 と定義しており

岩波は 一定のきまりに従い音声や文字 記号を連ねて 意味を表すもの また その総体 そういう 一まとまりの 形式的な 体系 ことば と定義したあと 言語を表現する行為をさすこともあると 説明しています

以上の各定義を要約しますと 言語とは 音声または文字によって思想 感情 意志を表現し伝達する行為または活動 ということになりますが 要するに 言語を行為または活動として把握しています ことばをものとして把握しているのに対して 言語を行為または活動として把握しているということに注目したいと思います

## 2 言の語源

角川書店の 漢字の起原 によりますと 定義のところに 言とは 口から出る意である 古代人は口から出るものは 何であると考えたか 言の字は 心 と 口 を合わせた字である 揚子法言の間神篇の 言は心の声なり とあるから 口から出る言を 心 と 考えたことがわかる と説明してあります

字源 によりますと 言 は 心に思ふことを ことばに発表すると定義し 更に 言は心に思ふ所を口に述ぶなり と説明しています

## 3 心の語源と定義

角川の 漢字の起源 によりますと 心 の字形は 説文に言うとおりに 心臓の象形である 定義は 心臓の形である と定義してあります

次に 心の定義を 辞書で見たいのですが 非常に複雑になりますので 私の考えを簡単に紹介します 心とは 五官 即ち 目 耳 鼻 舌 皮膚 から生じる五感 即ち 視覚 聴覚 嗅覚 味覚 触覚 の総称である ひとことで言いますと 心とは意識である ということです ただし いしき と言ってしまうと このいしきという言葉の中に いろいろな意味がありますので 角川の 意識 の定義を借用しまして 意識とは 対象を全体的に把握する総括的な精神作用 である と考えることにします

## 4 ことばとこころの関係

ことばとこころは密接な関係にあり 切りはなすことはできません

例えば 山田さんが 川田さんに 次のように言うとしします

オハヨーゴザイマス イイテンキデスネ この場合の オハヨーゴザイマス は朝日の登り具合とか 時計で 視覚的に意識して 口から出て来るコトバですし イイテンキデスネは 視覚的に あるいは 触覚的に意識した状態や結果が口から出て来るコトバです

次に マタサクラジマガバクハツシタヨーデスネ は 爆発して 耳に風圧を感じ 窓やドアなどが ガタガタする音を聴覚的に意識して 口から出て来るコトバです

コノヘンニモクセイガサイテマスネキット は あのもくせいの匂いを嗅覚的に意識し

もくせいの木や花を視覚的に意識する前に あるいは 意識すると同時に 口から出て来るコトバです

コノミカンワオイシーデス タベテミテクダサイ は 山田さんが味覚的に意識した状態または結果を 川田さんにすすめるために口から出て来るコトバです

コノヘヤワアッタカイデス ミナミムキデスカラ は 触覚的に暖いと意識しながら あるいは 朝日が部屋の中に差し込んで来ている様子を視覚的に意識して 口から出て来るコトバです

話はかわりまして 広辞苑の ことば の項に 言葉は心の使い という文があり 心に思うことが 自然に言葉にあらわれるにいう と説明がしてあります ことわざ辞典にも この文が出ていますが 要するに五感で意識した事実 意識した状態 意識した結果が 言葉となって表現される文であり 言葉と心の関係を 最も簡潔に表現している文だと私は思います

揚子法言に げんはしんせいなり（言者心声也）しょはしんがなり（書者心画也）という文があるそうですが これは音声言語と文字言語を 最も簡潔に表現した文だ と思います

## 5 ことばとハナシコトバと書きことばの関係

ことばは心であり ことばは意識と同じである ことばと心と意識は切り離すことができないものである と私は思います 心に思っていることを 口から音声によって 表現する時 その表現されたものを ハナシコトバと考え 心に思っていることを 手で文字によって 紙の上に表現する時 その表現されたものを 書きことば と考えることにします 従って 言葉とハナシコトバと書きことばの関係は 次のようになります ある人の心の中に 言葉があって この場合は 日本語があって それが 口から音声として出てくるとすぐ ハナシコトバになり 手によって文字として表現されるとすぐ 書きことばになる これが言葉とハナシコトバと書きことばの関係です

私達が日常使う言葉は ハナシコトバと書きことばに大別できます 例えば ことばな お耳にあり という文の中の ことば は ハナシコトバであり ことばを濁す という場合の ことば も ハナシコトバを意味しています 広辞苑の ことば の項の短文のそれぞれの説明を読みますと ことばを全部 ハナシコトバ を前提として説明しています ことばはみのあや（言葉は身の文） は ことばはその人の品格をあらわす と説明していますから この場合の ことば は ハナシコトバとも 書きことばとも 理解できるようです

## 6 表現されるハナシコトバ

広辞苑によりますと 表現 ということばは 次のように定義されています 即ち 心的状態 過程 または 性格 志向 意志 など 総じて 精神的 主体的なものを 外面的 感性的形象として表わすこと と定義されています 従って ハナシコトバも 書

きことばも 表現の一種ですから 表現されるハナシコトバ という表現は づつうがいたい（頭痛が痛い） というのと同じように 意味が重複していることになりますが ここでは 便宜上 このまま表現することにします

さて 表現されるハナシコトバ ですが ハナシコトバは ある人の口から音声となって 出て来るものですが 音声は音声であって 音声を文字に表わすことは 厳密に言って 不可能ですから これ以上論述できません しかし 常識的に言えば ある人のハナシコトバを 書きことばにかえて伝達することは よく行なわれていることです ハナシコトバには 声の質 抑揚 イントネーション アクセント 区切り 息使いなど いろいろな要素を含んでいますから 第三者が受け取る時 正確に受け取る時には 問題は起りませんが 自分勝手に受け取ったりする場合に さまざまな誤解が生ずることになります

## 7 表現される書きことば

私が現在記述していることばが そのまま 表現される書きことば になります このままコピーをして公表すると 私の 書きことば を証明することになりますが 一般的には 印刷されますので 私の書きことばの特徴が完全に消滅してしまうことになります

即ち ボールペンで書いてあるとか 丁寧に書いてあるか 乱雑に書いてあるかの相違とか 筆圧とか 文字の書き方のくせとか 誤字など 私の特徴はなくなってしまいます なぜなら 活字は 書きことばの個性を奪ってしまう伝達手段 だからです

## 8 表現されないハナシコトバ

ある女子学生が 最近発見したこととして いったん癖がついてしまうと直すのは難しい と書いていましたので その学生に ドンナクセデスカ と聞いたら にこにこしているばかりで 答えませんでした アサネデスカ ソレトモ タベスギデスカ と聞いたのですが それでも やはり 答えませんでした 彼女の目や表情から どうやら あさねのようでしたが あさねは悪いことだと思っているからでしょうか とうとう 何にも言いませんでした このかん わずか10秒ぐらいです

目は口ほどに物を言う とか 目に物言わす という文は まさに 表現されないハナシコトバ の典型です

## 9 表現されない書きことば

文学作品は全部 最初は 書きことば によって表現されたものですが ハナシコトバ は勿論 書きことば も それぞれ意味をもっていますから 書きことばそのものが作者の意図であると同時に その前後に複雑な意味をもっています 従って 表現されない書きことばは 余韻じょうじょう とか 意味深長 とかいう語句で表現されると思います なお 筆舌に尽し難い という語句でわかるように 自分の意図することを 書きことば として どうしても表現できないことは確かにあるでしょう 特に 感受性の強い人は 自分の心を全部表現することは ほとんど不可能かも知れません

先日 あるパンフレットを読んでいたら 勇気こそ 地の塩なれや 梅真白 草田男 という俳句が目にとまりました 一見した時 地の塩 の意味がわからずに 読みすごすところでしたが 英和辞典でその意味がわかり この俳句は大変意味深長だということがわかりました 私は俳句はわかりませんので 自分勝手な解釈をしているかも知れませんが この俳句も 表現されない書きことば を無限に持っているように思われます

#### 10 故意に表現されるハナシコトバ

一般的に言って 事実にもとづいて 本心に忠実に表現されるハナシコトバが一番よいと思いますが 事実には大きく分けて 二種類 即ち よい事実とわるい事実がありますから 好ましい表現をするためには 善悪的的確な判断力が必要となります うそも方便が 故意に表現されるハナシコトバ のよい例です うそには 大げさにいうそと 控え目にいううそ 罪のないうそと 罪のあるうそなど ものの言い方 受け取り方によって いろいろあります

いつもは怠けている人が たまたま勉強しているのを見て ヨクペンキョーシマスネー と私が言えば その言い回しや雰囲気や態度によって ひにくにも あてこすりににも いやみにも いやがらせにも 聞こえるかも知れません

#### 11 故意に表現される書きことば

よい意味では 文学作品において 悪い意味では 政治家の選挙の公約において 表現される書きことばが この例にあてはまると思います 前者において 読者は作品の中に誇張法や緩叙法が用いられていることに気づき 作者の意図を推測するでしょうし 後者において 選挙民は到底実現されない公約だと見抜くでしょう いずれにしても 故意に表現される書きことば は それを読む者の判断力 批判力 理解力を必要とすることになります

#### 12 故意に表現されないハナシコトバ

例えば バスの中で 子供が騒いでいるのを見て シズカニシナサイ と私が言おうとすれば言えるのに 黙って見過ごすような場合 ある女性が ある男性と婚約をして 結婚式の日時 場所まで決めたとします 私がその女性に ソロソロイーハナシガアルデショー といったのに対して イーエゼンゼンというような場合 ある人が警官に尋問されて自分に不利な発言をしないような場合

#### 13 故意に表現されない書きことば

夏目漱石は ころろ の中で 精神的に向上心のないものは馬鹿だ と登場人物に言わせていますが この言葉はそのまま彼の人生観として いつも心に抱いていたものを そのまま表現したものかどうか 逆に 精神的に絶えず向上しようとする者は偉い というような肯定的文章をいつも考えていて この文章にあきたらずに 馬鹿だ ときめつけたのかどうか そのへんは推測することもできませんが 例えば 私がある人に手紙を書く時 あなたはバカだ と率直に書くと 相手を傷つけると思って 一般的表現で 絶えず

努力する人は偉い とでも書くとなると あなたはバカだ が故意に表現されない書きことば にあたります

#### 14 体で表現されることば

体で といっても 体全体で表現するのは 特に 喜怒哀楽の感情の極端な場合に限られますが 普通は 体の一部を使って その人の心または意識を表現します ジェスチャー（身振り 手振り 手真似）や サイン（合図）などが その例ですし ウィンク 舌打ち 舌を出す 指をならす 拍手をする 握手をするのも 感情の表現ですし また 会議中に あくびをしたり 居眠りをしたりするのも タイクツダ というハナシコトバの代りに 態度（心の程度）で 表わしていますが 体で表現されることば を 芸術まで高めたのが パントマイム（台詞を言わず 専ら身振りと表情とで行なう演劇）です

#### 15 感動詞または擬音として表現されるハナシコトバ

これは 驚き 恐れ 苦しみ 願い 呼びかけ 悲しみ 嘆き 喜び 憂い あわれみ あせり 戸惑い 軽蔑 さまざまな笑い そして 動物の鳴き声やいろいろな物音を表現する音声です 厳密に言う と 記述できないものですが 常識的に言う と アー と か オー と か いう種類の音声です

#### 16 感動詞または擬音として表現される書きことば

これは 前項の 音声 または 物音 を記述したもので 特に まんがの中で使用されます

#### 17 沈黙 無言 絶句

英語の諺に 沈黙は同意を与える というのがありますが 人がもし何かに賛成しなかったり いわれる通りにしなかったら したくない とか 反対だ と大抵言うのですが その時に 反対の意志表示をしなかったら 反対ではないものと考えられるというものです

もう一つ 沈黙は金なり<sup>キン</sup> という諺もあります これは 話すよりも黙っている方がよい時もある という場合に使われます 黙っていたり 一言もしゃべらなかつたりすると その場の状況によって 賛成と受け取られたり 反対と受け取られたりするの は 私達が日常よく経験することです

絶句は 感情が極端の場合に起る表現で 嬉しい時 悲しい時 残念な時 など ことばにならない ハナシコトバ と表現です

以上 ことば について 私がかねて考えていることを 書いて来ましたが 結論として ことばはここらである ことばは意識である 豊かなことばが 豊かな心を作り 広くて深い意識を作るといいますし 同時に 心が豊かになれば 心が豊かであれば ことばの豊かさを求めることになり 意識が広くて深くなれば 意識が広くて深ければ ことばの美しさを求めることになるでしょうし ことばにはいつもいろいろな意味が伴いますから その意味を的確に理解し判断して用いる能力が必要です 同時に 普遍的な価

値感も必要ですし 私達がことばの問題を追究し続けるとすれば 究極的には ことばを用いる人の人格あるいは人間性あるいは人生観の問題にまで到達することになると思います

付記 音声言語を記述するにはどうしたらよいかという主題がいつも心にあるものですから 一つの試みとして 句読点を省略し 記号を最少限にとどめてみました